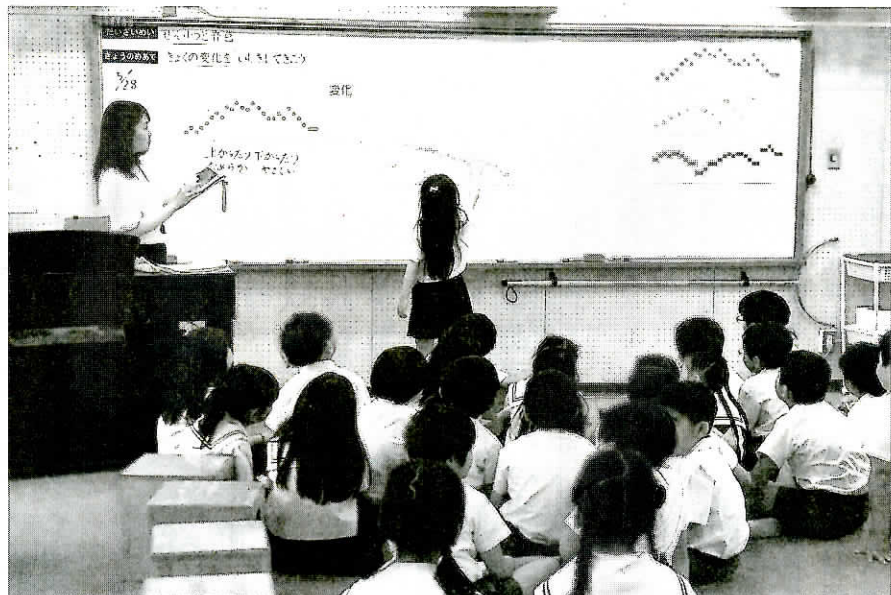


「深い学び」へ 授業デザイン探る

愛知教育大学附属名古屋小が実践研究発表会



愛知教育大学附属名古屋小学校（瀧田健司校長、児童629人）は5月28日に「2019実践研究発表会」を実施し、教育関係者など約700人が参加した。テーマは「深い学びにつながる授業デザイン」。各教科等の公開授業に加え、「深い学び」への授業づくりに関わる意見交換会などがあった。各教科の意見交換会と並行し、磯部征尊・同大学准教授による「プログラミング教育」についての学習会も行われた。参加者からは「日常の中にもプログラミング的思考があることを知り、今後の指導法を見直していきたい」という声があったという。

社会 各自が「問い」設定、追究 国語 汎用的な知識身に付け

「買うか、買わないか」。子どもたちは、その決断に迫られる。5年社会「わたしたちのくらしと農業」（全13時間）の最終時の授業。日本の農業が抱える「少子高齢化による人手や後継者不足」などの課題解決の手だてになるのではと、ゲノム編集（遺伝子に手を加える）による米作りに着目した。「買う派」「買わない派」のどちらかのスタンスに立ち、話し合いの中で積極的に自分の考えを伝えようとする子どもたちの姿はとても印象的

各教科等の公開授業があり、「深い学び」につながる授業デザインの提案があった

音楽 「つかむ」「ためす・生かす」「味わう」の3段階で

プログラミング的思考を引き出すポイント

- ①膨大な情報から必要な情報を整理すること
 - ②必要な情報をモデル化すること
 - ③モデルを比較・検討すること
 - ④効率化を高めるために、必要感を持ってICTを活用すること
- ☆4点とも満たしていれば、バッチリ！

この日、各教科等で20の授業が公開された。全ての授業で共通するのは、「深い学び」を切り口にしていたこと。子どもたちが協働して考えたいような仕掛けの工夫などが見られた。例えば、社会科では、導入で示された学習内容に対し、子どもたち一人一人が持った疑問から自らの問いを設定し、追究することによって解決を目指すことで新たな問いにつなげていく授業デザインを提案。国語

基盤となる思考、各教科で培う

「プログラミング教育」主題に学習会

学校現場の困り事や課題を扱う「学習会」。昨年度から各教科の意見交換会と並行して行われており、本年度は多くの学校現場で課題の「プログラミング教育」を扱う「学習会」がテーマに選ばれた。講師を務めたのは、磯部征尊教授。最初に「プログラミング教育とは何か」に触れ、「プログラミング的思考」の基盤となるのは、

「プログラミング的思考」を育むには、まず「汎用的な知識」を開いたという研究部長の「子どもたちの思考で漢字を書いたり、「もししたら…」という「分岐処理」の思考で鏡を置いて光を曲げたり、また一連の行動を繰り返す「反復処理」の思考でお店屋さんをしたりと、磯部准教授は、各教科の学習に隠れたプログラミング的思考を意識した授業づくりや言葉掛け、子どもたちへの価値付けの大切さを説いた。

さらに、「情報活用能力と新学習指導要領の三つの柱との関係」については、「プログラミング的思考」と「ICTの活用」「情報モラル」とを連携させたカリキュラムづくりの方法を紹介。「正しいプログラミング教育の姿を、学校から積極的に地域に発信してほしい」と、参加者にメッセージを送った。

附属名古屋小 052-722-4616

り)▷テーマ①私の理想とする職業人②好きな仕事で、夢をかなえる!③私の特技で、東京五輪パラリンピックボランティア④あれから8年、私は3・11を忘れない!!⑤私の仕事で、地方創生の中から一つ選び、題は各自でつける▷資格:高校生、高等専修学校生(4月1日現在で満22歳以下の者に限る)▷1600字以内、手書きかワープロ、個人か団体の応募▷賞:文部科学大臣賞、job大賞、東京都知事賞など▷03・5389・4510▷特定非営利活動法人仕事への架け橋▷「あしなが高校奨学金」▷【高校奨学生予約募集】(7月31日(1次)、12月15日(2次)、2月29日(3次)締め切り)▷募集人数1500人程度▷奨学金月額 国公立4万5000円(うち貸与2万5000円・給付2万円)、私立5万円(うち貸与3万円・給付2万円)、私立高校入学一時金制度(貸与30万円)も有り(対象は予約採用決定者のみ)▷0120・77・8565▷あしなが育英会

る▷045 ネット▷ht 私」エッセ (7月10 印刷と私) ①一般の部 生以上) … セイ800字 印刷にまつ ①②とも、 心に残っ 刊の思い出 文に)▷応 ネット(小 女)▷賞: 小山薫堂優 ▷03・35 ル=contest 日法人日本 ンプリン ごと)作文 0日締め切